

# 博物館だより

No.198



令和5年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー						
2022年 5月						
日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

休館日 ※情報はR5.4.19現在

## 「令和」改元5周年・先人顕彰マンガ完成記念特別展 「吉田兄弟物語展」

会期：4月29日祝・昭和の日～6月25日(日)

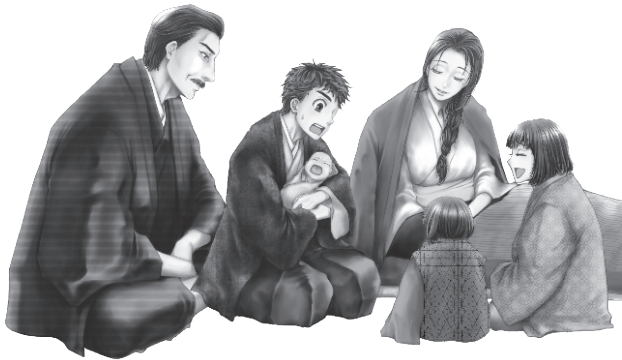
当館では「令和」改元5周年及び、みやこ町先人顕彰マンガの完成を記念してマンガの対象人物の一人、吉田増蔵が考案した元号ゆかりの「昭和の日」から企画展を開催いたします。

この企画展では「昭和」の元号及び「平成」在位の天皇陛下の称号・名前を考案した、みやこ町出身の漢学者、吉田増蔵やその兄健作ゆかりの資料を展示します。また現在、若い人々を中心に注目を集めている「昭和レトログッズ」を集めた「ミニ展示コーナー」を設けます。

なお企画展開催中は子どもから大人まで楽しみながら、元号について学んでもらうため、元号発表の舞台を再現した「歴史的瞬間体験コーナー」を開設します。また、開催期間中みやこ町図書館で吉田兄弟や企画展関連図書を紹介コーナーを設けます。大型連休を利用して是非ご来館ください。



▲歴史的瞬間の「なりきり」体験実施中!



▲吉田増蔵誕生シーン(抱き上げているのが兄、健作)



▲吉田健作(兄)



▲吉田増蔵(弟)

## ◆博物館NEWS ★講座・教室・催し物ガイド 5月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】  
5月6日(土) 9時30分～
  - 【古文書講座】  
5月13日(土) 10時～
  - 【古典かな講座】  
5月20日(土) 9時30分～
  - 【みやこ学講座】  
5月27日(土) 10時～
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途通知します。

★中学生の皆さんへ(テトクを旨より)をニュース!  
小中学生は令和5年度中博物館を何度でも「無料で見学OK!」という事業がスタートしました!!

みやこ町歴史民俗博物館は、福岡県が企画した「子ども美術館・博物館無料鑑賞事業」に参加することに伴い、令和5年度中、小中学生の常設展観覧料を無料にすることにしました。

これに伴い、令和6年3月末まで「小中学生なら(町内外問わず)二無料で二何度でも」当館の常設展示をご覧いただくことが出来ますので、この機会に当館へ何度でも足を運び「みやこ町歴史博士」を目指してみたいかがですか?

なお、この事業では県内の多くの美術館・博物館等も同様に無料で楽しむことが出来ます(※一部対象外の内容もあります)。詳しくは以下機関宛てお問合せ下さい。

- みやこ町歴史民俗博物館  
(0930)3314666
- 福岡県人づくり・県民生活部  
文化振興課(092)64313382

## 3月・4月の業務日誌から



▲奉納後は大きな拍手が!伝統芸能は見事に継承されました。

3月19日(日) 松下政経塾第43期生の皆様がみやこ町を訪れ博物館や町内史跡を見学しました。奈良など古代の政治的中心地と同規模の史跡が多数所在していることに驚きの様子で、様々な質問を受けました。

4月15日(土)・16日(日)、勝山黒田にある黒田神社の神幸祭で町指定文化財「黒田楽」が奉納されました。コロナウイルスにより3年間中断したため、練習には奉納経験者の中・高校生も指導に協力していただき、見事に復活することができました。



▲巨石古墳や三重塔など古代の技術のすばらしさを見学していただきました。

# みやこの歴史発見伝 157

## 吉田増蔵(その十二)

吉田兄弟の功績②

### 先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」

みやこ町は、令和4年度、B&G財団の「ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業」により

この対象人物となった吉田増蔵については先月、ご紹介いたしました。製麻業の父」と称えられている吉田健作についてご紹介します。

### 上京まで

吉田健作は、嘉永5年(1852)に京都郡上田村(現みやこ町勝山上田)に生まれ、漢学者の村



完成したみやこ町の先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」

上弘山が上稗田村に開いた私塾「水哉園」で学びます。明治7年(1874)には「小倉県」に就職し、故郷の農業振興に貢献します。この翌年2月に上京し、5月には内務省に勤務します。これ以降、彼は日本の産業振興策に深く携わることになりました。

### フランスにおける麻の研究

吉田健作は、大久保利通が推進める産業振興策の技術者として働きながら、欧米諸国に追いつくためには紡績業、特に製麻業の発展が急務であると考え、日本の気候・風土に適した亜麻の栽培、製麻技術の研究に没頭します。

明治11年(1878)フランスで開催されたパリ万国博覧会へ松方正義(後の首相)に随行してフランスに渡りますが、フランスで

は日本との技術的な格差を目の当たりにします。現実を痛感した健作はフランス北部のリール市にあった大規模な亜麻の栽培農家で、昼間は、製麻技術の実地研修、夜はフランス語、機械工学など、文字通り寝食を忘れて技術習得に努めました。その結果、3年という短期間で製麻に関する一連の技術や知識を習得することができましたが、この無理がたたって重い喘息の持病を抱えます。

### 横田万寿之助

健作が留学する前年、フランスのリヨン近郊にあった工業学校の予備校に入学し、その後リールの工業学校で製麻や麻糸の紡績技術を学んでいたのが横田万寿之助です。彼とフランスに留学した稲畑

北海道で製麻工場の設立に努め、さらに西陣織や日本の絹糸紡績にも携わりました。1934年には弟の横田永之助と共に日本最古の映画会社の一つ「横田商会」を設立し、初期の映画興行にも携わります。これは万寿之助と共にフランスに渡った稲畑勝太郎が輸入し



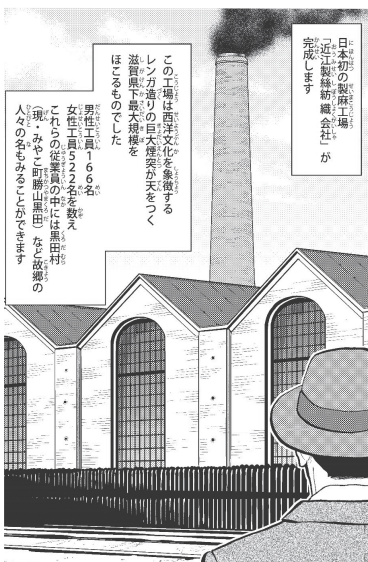
麻製品の必要性を説く吉田健作

た「シネマトグラフ」の興行を引き継いだものです。「シネマトグラフ」は吉田増蔵や健作とともに

人であることは非常に興味深いもの。横田商会」は他社と合併し新たに発足した映画制作・配給会社が現在の「日活株式会社」です。

### 工場設立

健作が34歳の



日本初の製麻工場完成のシーン

時に、日本初の製麻工場「近江製絲紡織会社」が滋賀県大津市に完成します。この工場は男性工員166名、女性工員522名を数え、この中には現在のみやこ町勝山出身の人々の名前も多数みられます。吉田健作は横田万寿之助と機械購入、外国人技術者雇入れのためフランス、ドイツ、ベルギーなどへ出張しますが、このとき、工場の建設主任という重要な役割を担ったのが宮村朔三でした。健作より一歳年上で、同じみやこ町勝山地域の出身の朔三も健作と共に工場の生産拡大に努め製麻業の発展に尽くします。後に彼は故郷の黒田に巨費を投じて公会堂を建設、寄付します。

明治25年(1892)2月5日、吉田健作はフランス滞在中に患った喘息により41歳という若さで亡くなりますが、製麻や繊維産業の発展は横田万寿之助、農業振興や故郷への思いは宮村朔三に受け継がれました。

(井上信隆)